

受領No.1490

ハンドル形電動車いす使用者と一般ドライバの 運転行動認識に関する研究

代表研究者 安心院 朗子 目白大学 保健医療学部 理学療法学科 専任講師

Research on driver behavior recognition of electrically powered scooter users and general drivers

Representative Akiko Ajimi, Mejiro University Department of Physical Therapy Faculty of Health Sciences, Lecturer



研究概要

近年、高齢者の自動車免許自主返納が増えており、それに伴い代替となるハンドル形電動車いすの需要が増加傾向にある。高齢者の次世代モビリティとして期待されているハンドル形電動車いすの一番の特徴は、道路交通法で歩行者として扱われていることである。

ハンドル形電動車いす使用者の運転行動の問題については事故分析から報告されている（消費者庁、2016;安心院・西館、2010など）。一方で、ハンドル形電動車いす使用者からの自動車運転行動についてのニーズは明らかになっていない。また、一般ドライバがハンドル形電動車いすの存在についてどう理解し、どのような場面にストレスを感じているのかについても不明である。

そこで本研究では、ハンドル形電動車いす使用者と若年（運転歴10年未満）一般ドライバが互いの運転行動にどのようなニーズがあるのかについて明らかにする。また、ハンドル形電動車いすと自動車がすれ違う際に感じるストレスが歩行環境別に異なるのかについて明らかにすることを目的とする。その結果、使用者への操作教育およびハンドル形電動車いす使用と共生していくための一般ドライバに対する教育資料の一つとなると考えられる。